

資源管理に必要な情報の提供事業

漁海況予報関連調査

久野正博・奥村宏征・藤田弘一

目的

本県沿岸の漁況および海況の調査研究を行い、漁海況情報を迅速に漁業関係者に提供すると共に、その情報を解析して漁海況予報を行い、漁業資源の合理的利用と漁業操業の効率化を図り、漁業経営の安定化に資する。

方法

熊野灘 19 測点および伊勢湾 16 測点において、毎月 1 回の海況調査を調査船「あさま」で行った。漁況は主要漁業協同組合から統計資料の入手および電話による聞き取りによって収集した。収集した漁況・海況データは取りまとめて解析し、漁海況速報として毎週 1 回発行した。

結果の概要

詳細については平成 20 年度漁況海況予報関係事業結果報告書（漁海況データ集）で報告したので、以下は概要を記す。なお、漁況については「資源評価調査」で報告した。

1. 黒潮流路

黒潮流路は、平成 20(2008)年 1 月から 3 月は N 型基調で経過し、4 月中旬に B 型となった。5 月末には C 型へ移行し、6 月中旬まで安定した C 型が続いた。6 月下旬以降は八丈島南東沖で変形した C 型流路となった。7 月中旬に黒潮小蛇行の一部が潮岬沖を通過し、7 月下旬には一時的に W 字状となった。8 月以降も黒潮は変動を伴う C 型基調で経過し、9 月下旬から 10 月下旬は八丈島南東沖で大きく変形した流路となった。11 月は比較的安定した C 型が継続し、蛇行規模を徐々に拡大させた。12 月には規模の大きな C 型となり、房総半島沖で S 字蛇行した形で安定した。1 月上旬には房総半島沿岸の黒潮が切離し、房総沖で大きく離岸する C 型へ変化した。2 月以降も規模の大きな C 型が持続し、蛇行南端は 2 月下旬～3 月はじめに 31°N 付近に達した。3 月中旬には蛇行規模がやや縮小したものの、年度末まで規模の大きな C 型が持続した。

潮岬沖の黒潮は、4 月上旬～中旬に小蛇行の通過に伴って 20～30 マイル程度離岸し、5 月から 6 月は接岸した状態が続いた。7 月以降は接岸が安定することではなく、10～20 マイル程度のやや離岸基調で推移した。

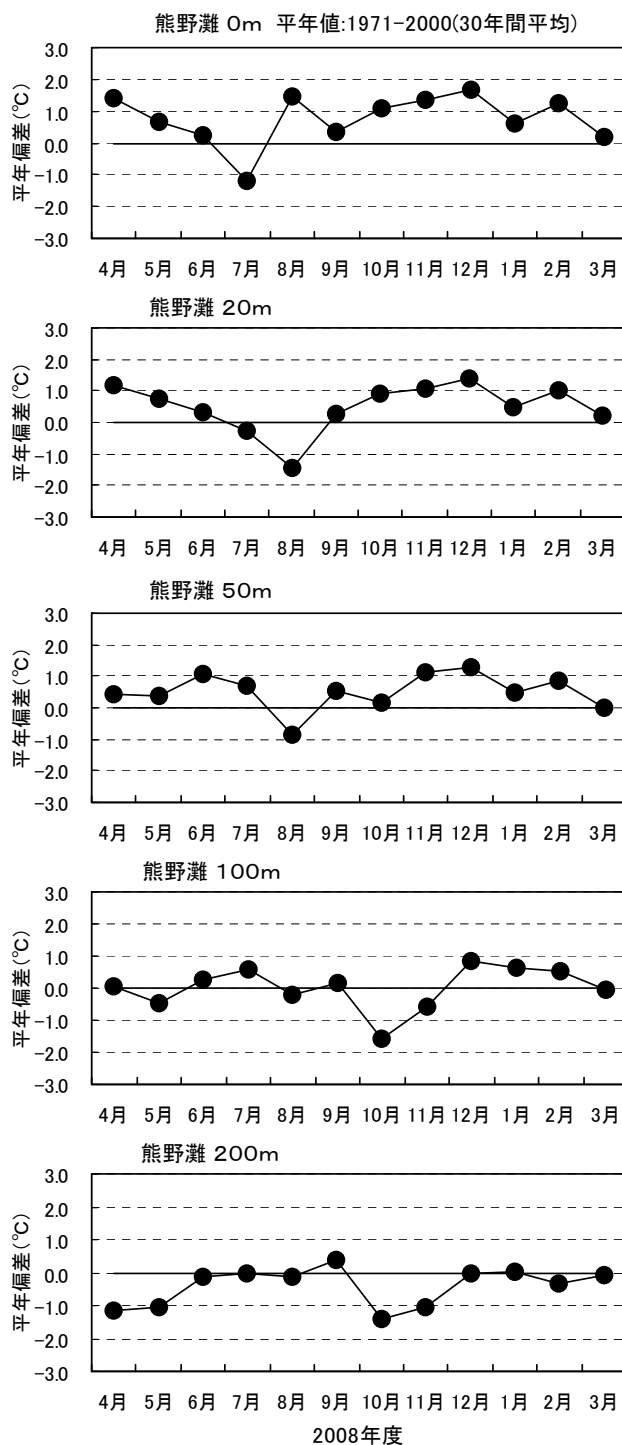


図 1. 熊野灘沿岸定線観測における 17 測点平均水温の平年偏差

2. 熊野灘の海況

熊野灘沿岸の水温は、3月の低水温から4月に黒潮のB型流路への変化に伴って高水温へ顕著な変化が見られ、4月20日頃には黒潮内側反流によって4月としては記録的な高水温となった。5月中旬に黒潮内側反流が切離し、暖水が熊野灘に接岸し、その後は暖水の影響は弱まった。熊野灘表層の高水温は5月に解消傾向となり、徐々に平年並みとなった。下層では低水温傾向となった。6月は平年に比べて昇温が遅れ、顕著な暖水流入もなかったことから、沿岸水温は低め基調で経過した。また、6月は沿岸の表層で低塩分が顕著であった。7月はじめは表面を含めて低水温傾向、7月中旬には猛暑の影響で表面では一気に昇温した。7月中旬以降は東から反流状の暖水が継続して流入し、高水温傾向が強まった。8月中旬まで表面では高水温が顕著であったが、下旬に気温の低下に伴って表面では一気に降温した。9月中旬頃から暖水舌の影響を受けやすく、沿岸水温は平年並み～やや高め基調で経過した。10月には顕著な暖水流入は見られなくなり、下層水温は平年並み～低め基調となった。11月は伊豆諸島域で黒潮系暖水が切離し、小暖水渦として東海沖を西進し、中旬以降は志摩半島南東沖に停滞した。この小暖水渦に南から暖水供給があり、熊野灘では北部を中心に高水温傾向となった。12月には小暖水渦が熊野灘沿岸を南下し、沿岸水温は平年並み～やや高めで経過した。1月は熊野灘へ南から断続的に暖水が流入し、沿岸水温は平年よりやや高め基調で経過し、下旬には熊野灘北部の内湾でも顕著な昇温がみられた。2月および3月も熊野灘には南からの暖水流入が頻繁に見られ、沿岸水温は平年並み～やや高め基調で経過した。なお、熊野灘の表層塩分は秋以降、平年に比べて極端に低い状態が3月まで続き、観測開始以来の各月における最低塩分を更新した測点があった。

浜島の定地水温は、冬季の低水温が解消し、4月前半は平年並み～やや高め、4月後半～5月前半は平年よりも2℃前後も高めとなった。5月中旬以降は一時的に高めとなった他は6月中旬までほぼ平年並みで経過し、6月下

旬は平年並み～やや高め、7月中旬に高めとなった。7月中旬～8月中旬は平年を2℃前後上回る高水温が続き、観測史上で同日の最高水温を記録した日もあった。8月下旬～9月上旬は平年より低め、その後は平年並み～高めで12月まで経過した。1月下旬には南からの暖水流入によって一時的に平年より2℃以上高い日があったが、その後は3月まで平年並み～やや高め基調で経過した。

3. 伊勢湾の海況

伊勢湾の水温は、4月～7月まで平年並みを基調として推移した。8月に平年より低めとなったが、9月は平年並みとなり10～12月は高め基調で推移した。1月にはやや低下してほぼ平年並みとなったが、2～3月は平年よりやや高め～高めで推移した。

表層の塩分は、6月に平年より低めの他は8月まで高めで経過した。9月にはほぼ平年並みの測点が多くなり、10月から平年を下回る測点が増えて、11月には全体に平年値を下回るようになった。12月には平年並みかやや低い程度となり、1～3月はほぼ平年並みで推移した。

底層における貧酸素水塊(DO 2ppm以下)は6月に観測され、7月にはさらに規模が大きくなり、平年よりもその範囲は広く形成され、平年より遅い11月まで長期間継続した。

白子の定地水温は、3月中旬以降平年よりもやや高めで推移し、4月上旬には平年並みとなったが、その後もやや高めで経過した。5月上旬には平年よりかなり高めとなったが、その後はやや高めで経過した。6月はほぼ平年並みで経過し、7月～8月中旬は平年値よりも1℃ほど高く経過したが、8月下旬には平年値よりも2℃下回った。その後はほぼ平年並みで推移したが、10月中旬以降は平年より1℃程高かった。11月以降は平年並み～やや高めで経過し、1月は中旬頃に平年を1℃程下回ったが、2月には平年より1℃程度高めに戻り、3月まで経過した。

関連報文

三重県(2009)：平成20年度漁況海況予報関係事業結果報告書(漁海況データ集)。